

令和7年2月21日

発 言 者	発 言 要 旨
佐藤(文)委員	令和6年7月25日からの大雨災害における林地の復旧状況はどうか。
森林保全主幹	道路や家屋が被災するなど緊急性があるもののうち、林野庁が所管する災害関連緊急治山事業9か所、災害関連緊急地すべり防止事業2か所について、昨年11月18日までに採択を受けている。現在、復旧事業に必要な調査測量を実施しており、融雪後、直ちに工事着手できるよう発注手続きを進めている。
佐藤(文)委員	具体的な工事の発注状況はどうか。
森林保全主幹	庄内町の山腹崩壊箇所については2月5日に入札が行われ、工事を進めている。舟形町、鮭川村の被災箇所については、3月11日に入札執行予定となっている。
佐藤(文)委員	復旧完了時期はどうか。
森林保全主幹	令和7年度中に復旧完了することを目標にしている。
佐藤(文)委員	水田活用直接支払交付金について、交付対象水田の見直しが政府において議論されているが、今後の県の対応はどうか。
米政策推進主幹	<p>先日、都道府県及びJAの担当者向け説明会が開催され、令和9年度以降は水田や畑に関わらず作物への支援に転換するという説明を受けた。制度等の詳細に関する説明はなく、今後、各方面から意見を聴いて内容等を検討していくとのことであった。</p> <p>現場の話を聞くと、生産者等からは現場に即した変更であるとの受け止めがある一方で、土地改良区では8年までの水の調整等について対応してきたこともあり、困惑しているようである。</p> <p>これから制度設計するとのことであり、県としては、現場が不利益を被らないような制度となるよう、政府に対する施策提案等により国に要望していきたい。</p>
佐藤(文)委員	先日の最上地域議員協議会において、大雨災害により次期作の作付けに間に合わない箇所の支援策として、大豆やそばの作付けを進めていきたいとの話があったが、この場合、水田活用の直接支払交付金の対象となるのか。
米政策推進主幹	令和8年度までは水田活用の直接支払交付金での支援対象となる。
高橋(淳)委員	水稻新品種「山形142号」の品種開発の状況及び県の奨励する品種として採用することとなった経過はどうか。
農業技術環境課長	水稻の品種開発は最短で10年程度かかるが、「山形142号」は13年程度で、通常より3年長くかかった。良食味で収量が高いことはわかっていたが、高温耐性について現場の実証を増やし、継続して検討してきた。1月27日に令和6年度山形県主要農作物奨励品種開発協議会を開催し、高温耐性がやや強いことや各種デ

発 言 者	発 言 要 旨
高橋(淳)委員	<p>一タもそろったため、県の奨励する品種として認定することとなった。その後開かれた6年度山形県職務育成品種登録審査会において、「山形142号」を品種登録することを決定した。</p> <p>つや姫のブランド化維持、再活性化に向けた今後のコミュニケーション戦略はどうか。</p>
農産物販路開拓・輸出推進課長	<p>ブランドの再活性化に向けた具体的な取組みとしては、CMを新しくする、若い世代向けにSNSによる情報の発信等を図っていくことを考えている。</p>
高橋(淳)委員	<p>第5次農林水産業元気創造戦略における鳥獣被害対策のKPIに農産物の被害額を位置付けているが、捕獲頭数をKPIに位置付けるべきと考えるがどうか。</p>
農村計画調整主幹	<p>被害額は行政コストや地元への負担を減らす客観的な指標として、農林水産省において全国画一的なものとしており、この度、これをKPIに位置付けた。捕獲頭数を一つの指標とすることはできるが、捕獲頭数を増やすと逆に分散してしまうなどの獣種の特色もある。その点については、環境エネルギー部とも情報共有して検討を進めていく。</p>
農政企画課長	<p>第5次農林水産業元気創造戦略は、現在案として示しており、今後パブリックコメントを行い、3月24日の農林水産業活性化本部会議での策定を目指している。委員を含め様々な方から意見をもらい、それらを反映するなどして取り組んでいきたい。</p>
菊池委員	<p>令和6年7月25日からの大雨災害からの復旧に当たり、災害査定を待たずに復旧工事に着手できる査定前着工制度の活用状況はどうか。</p>
農村防災・災害対策主幹	<p>災害査定件数397件のうち、査定前着工制度を活用して応急工事を実施した件数は81件で約2割である。</p>
菊池委員	<p>米粉パンの導入拡大を推進している中、学校給食米粉パン導入拡大推進事業費の減額補正の理由はどうか。</p>
米粉・食品産業支援主幹	<p>当該事業は県産米粉の利用拡大を目的として、学校給食において米粉パンを提供するものであるが、令和5年度から提供を開始したばかりであり、現在22市町村に留まっている。市町村によっては様子見をしているところもあるようである。2年目である6年度は5年度より利用が増えており、児童・生徒からも大変好評であるため、提供回数は今後伸びてくるものと予想している。県産米粉の利用の定着に向け、より一層働きかけていきたい。</p>
森谷委員	<p>果樹園などで病害虫の防除に使用する農薬散布機であるスピードスプレーヤ(以下「SS」という。)に係る支援事業の詳細はどうか。</p>
園芸大国推進課	<p>物価高騰の中で、SSの更新ができずに果樹栽培を断念する方を少しでも少な</p>

発 言 者	発 言 要 旨
長	くするため、市町村と協調して支援を行うものである。補助率は県と市町村合わせて3分の1を想定している。補助要件は、耐用年数7年であるSSを10年以上使用しているものを対象として支援する。
森谷委員	新車のみ補助対象となるのか。また、農薬散布時に作業者を薬液の飛散から守るキャビン付きのみ補助対象となるのか。
園芸大国推進課長	新車のみ、キャビン付きのみの制約は設けず、中古でも、キャビンがなくても補助対象とすることで考えている。
森谷委員	納期が1年以上かかるようだが、令和7年度に納入された場合でも支援は受けられるのか。
園芸大国推進課長	メーカーから、SSの大きさによって納期に違いがあること、タンク容量が6000程度のSSは納品まで半年程度かかることなどを聞いている。当該事業は令和7年度に繰り越し、7年度中に納品となるものを支援対象とすることで考えている。
森谷委員	この度の大雪による農道の除雪支援事業の支援対象とする実施主体はどうか。
農政企画課長	実施主体は、農業団体と考えている。
森谷委員	仮に、農家自ら除雪機械を購入して除雪する場合は、支援対象となるのか。
農政企画課長	除雪機械を購入する場合は支援対象としない。農道の除雪については、大型機械等を保有している事業者には作業を委託する場合の経費を支援するほか、自ら行う場合でも、除雪機械の賃借料に対して支援する。
森谷委員	除雪機械をレンタルするのは他の農家も同様であり、レンタル機械の空きが少ないことが多い。このような現場の実態を踏まえた支援の在り方を検討していくべきと考えるがどうか。
農政企画課長	大雪の状況も踏まえ、農家のニーズが変わってきていることを受け止めつつ、補助事業の在り方など、現場の実態にあった支援策を検討していきたい。
渋間副委員長	1日農業バイトアプリ「daywork」による生産者と働き手のマッチング状況はどうか。
農業経営・所得向上推進課長	マッチング成立数は、令和5年度で延べ1万3,182件、6年度1月末時点で延べ1万8,327件であり、5年度と比較して1.4倍となっている。
渋間副委員長	マッチング後の就農など、事業の効果についての県の考え方はどうか。
農業経営・所得向上推進課長	新規就農した方に聞くと、農業アルバイト体験がきっかけで新規就農した方もいる。また、生産者側では「daywork」でアルバイト雇用したことをきっかけに、直接雇用に切り替えた生産者が34%、数にして80人を越えている。また、やまが

発 言 者	発 言 要 旨
	<p>た農業支援センターの相談窓口を訪れる就農希望者のうち、「daywork」を通じて数か所の農園でアルバイトをして自分に合った品目や就農予定地を探す方もいるようであり、単にアルバイト募集のツールというだけではなく、雇用就農や独立就農につながる一つのきっかけとして機能しているものと考えている。</p>